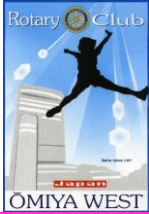


ROTARY CLUB OF OMIYA WEST



2021～22年度 大宮西ロータリークラブ週報



創立：1963年3月22日

会長 福田 和子

例会場：パレスホテル大宮

幹事 押野 一郎

第2734例会 2022/05/30

例会日：月曜日 12:30～13:30

雑誌・会報委員会 廿野 幸一

発行日 2022/06/06

会長挨拶

会長 福田 和子

皆様、こんにちは。Zoomの皆様、お元気ですか。あとひと月でロータリーは今年度も終了、そしてあと数日で夏を迎える衣替えの日です。

早くもフランスのパリから、今年冬のファッションのニュースが飛び込んできました。今年のテーマは、自然を大切に保護するという意味もあり“ファー”いわゆる毛皮

製品を使わず、それに近い繊維開発でファッション業界を盛り上げていくことだそうです。製品によっては、ワシントン条約規定による環境問題のぎりぎりの取引をしなければならず、数に限りがあります。毛皮以外ですが、ワニ革にも数の規定があります。昔、ワニ革の靴やベルトが流行りました。ワニ革の靴を履かれていた方もいらっしゃると思います。今や大変高価なものとなりました。

ワニのことですが、だいたいワニは動物園で見ますね。以前、私がアメリカのノースカロライナでゴルフをした時の話です。小平 智が優勝したPGA男子ゴルフトーナメントで、2022年にはジョーダン・スピースが優勝したRBCヘリテージが行われたゴルフ場の近くの湿地帯のコースでのこと。ドライバーで打ったらフェアウェイにバンカーがあり、うっかり方向が狂いそこにボールが入ってしまいました。カートで走りながらバンカーを見たら何か丸太のような黒い物体が横たわっていて、近づいて見たらそれは大きなワニでした。「ワニは夜行性なので動かないから大丈夫よ」と言われましたが、怖くてボールが取れませんでしたので、一打罰でプレーを続行しました。そこから打ったら左の池の近くにボールが行ってしまい、打てそうなので、アドレス（ボールを打とうとクラブを持って構える）しました。そうこ



うしている内に、ワニの赤ちゃんが次から次へと出てくる出てくる！大きさは、約20～30cmくらいでした。ワニの赤ちゃんがフェアウェイを二本足で駆けて逃げて行く様子は、まるで映画「ジュラシック・パーク」のようでした。こんなにもいたら靴やバッグを多く作れるのに、とってしまいました。ワニの取引は、年間1000と聞きます。数が少ないので高価になるのは仕方がないです。そして、飼育して革製品にするのは、動物虐待になるとのことで反対する団体もあります。

いずれにしても、無駄な動物・生き物はこの世におりません。互いに持ちつ持たれつで生態系が成り立っております。人間の知恵で環境に良い製品作りが行われ、今年のウィンターファッションがどんなものになるか楽しみです。

雑駁ですが、これにて会長挨拶といたします。

訃報

5月16日(月)、31代パスト会長の山本 勝一郎様が、86歳で逝去されました。生前は熱心にロータリー活動された方です。謹んでご冥福をお祈りいたします。

ロータリーの目的・四つのテスト

【本日のリーダー】

金田 敬次 会員



お客様紹介・米山記念奨学生紹介

2022学年度米山記念奨学生
グエンティガンさん

5/21(土)～23(月)、2泊3日で、ライラ研修を受けてきました。宮古島のおみやげ、ちんすこうをテーブルに置きました。どうぞお召し上がりください。



(ご紹介：副会長 藤嶋 剛史)



心に夢を 奉仕に行動を

事務局：さいたま市大宮区桜木町1-11-2 YK-12ビル 4F

TEL 048-871-8881 FAX 048-871-8882

E-mail: west@rc-omiya-west.com HP: http://rc-omiya-west.com/



幹事報告



幹事 押野 一郎

・桶川イブニング RC と北本 RC の創立合同記念講演会のお知らせをテーブル配布しました。6/23 (木) YouTube での開催となるそうです。
・6/20 (月) の例会は、年度総括です。各部門委員長、委員長は発表をよろしくお願ひします。

委員長報告、派遣役員報告

■ゴルフ部会 小林 政良

6/17 (金) ~19 (日)、宮古島での親睦旅行を計画しました。ゴルフと観光を考えています。ぜひご参加を。明日 5/31 (火) までにお返事ください。



会員卓話

■青少年奉仕委員会 委員長 配島 信恵

ホストファミリーのご経験のある、藤池会員と小島会員に、青少年交換の留学生受け入れ時の貴重なエピソードをお話しいたします。

■藤池 誠治 会員

青少年交換

ロータリー青少年交換に参加する学生は、最長で1年間、母国以外の国で、ホストファミリーと生活を共にし、学校へ通います。ロータリーの長期と短期の青少年交換プログラムによって、参加者は、新しい生活様式、さらには新しい言語、そして自分自身についても多くのことを発見することになります。また参加者は、自国やその文化、自分の考えを会った人々に伝える若き親善使節として、親しい友人を作りながら、世界を一つにする役割を担います。

- ・交換留学期が来日する前に、2ヶ月ごとのホストを決める必要がある(6家族)
- ・原則として、クラブの会員が日常生活以外の体験をさせる

・ジェニー(オーストラリア)

お父さんもホストしました

・ミホ(ブラジル)

20年以上たった今でも、文通

・アメリカ

職業人、

牛タンを初めて食べたようだ

・ブラジル

すき焼きをごちそうしようとしたが、南米は牛肉食べない

・アン(アメリカ)

「帰りたい」と言った子

・スティーブ(オーストラリア)

段ボールいっぱい折りたたみ傘をオーストラリアに送っていた、写真を撮っても人を入れない



・セーラ(オーストラリア)

重度の小児麻痺(右足を引きづって歩くくらい)

両親が懇願して送ってきた

箱根に旅行(富士山を見に)

伊奈学園に通えない

「もうちょっと日本にいたい」

ロータリアン皆、交代で朝、学

校まで一年間、送って行く

靴は3足替えた

今でも手紙をくれる



多くの会員(6家族)で預かり、情報を申し送り
※大宮西は大きな RC なので、一番活動しなければならない大事な事業は「人を扱う」活動。積極的にやって相互理解することが大切
中村会員に「高校生にすすめる」と話した→ご子息をアメリカに送った

人種差別の問題はある(東洋人、中国・韓国)
ロータリーは奉仕をする会。相互扶助→奉仕の精神、奉仕の最たるものは身体を動かす、人と付き合うことであると考えます。
来年度は交換留学生の事業を積極的に参加してほしいと思います。

■小島 徹 会員

受け入れを初めて経験し戸惑った者として、経験した事をそのまま具体的にお話させていただきます。今後、ホストファミリーを引き受ける方の一助になれば幸いです。



留學生 ドミニーに関して

初めてホストを引き受けたのは、内山年度(2013-14年)で、留学生はカナダのオンタリオ州出身で可愛い女の子で、ドミニーです。
大宮北高校に2年生で編入。当時の校長は、現さいたま市教育長の細田真由美先生で、当時から留学生の受け入れにも積極的に取り組んでおられましたので、大変心強かったです。

【他のホストファミリーについて】

カウンセラーは木本会員で、受け入れに関しましては細かくご指導いただきました。

ホストは基本2ヶ月交代で回していきます。

ドミニーの場合、最初が中村健一会員、2番目が私、3番目が野村證券 君波会員、4番目が新見会員、5番目が齊藤照夫会員、最後が小峰会員。

【ホストファミリーの注意事項について】

ホストファミリーに決まると同時に、事細かな注意事項マニュアルがまいります。

・特に注意する点は、木本カウンセラーにも重々言われていたのですが、とにかく「お客様扱いをしない事」。が、これがおもてなしの心を持っている日本人にはなかなか難しい事でした。彼女の部屋の襖を明るく張り替えたり、畳の上にカーペットを敷いたり、新しく勉強机を購入したり結構気を使っていました。

・贅沢な食事に行ったり、豪華な旅行をしたり、高額な贈りものをしたり、決められた以上に小遣いを渡

したりしないこと。

・オリエンテーション、日本語学校など、留学生が集まる所で、情報交換したりするそうで、特別扱いをしない方が良いとの事です。

・留学生に対する大事な生活ルールに「4Dルール」があります。世界ロータリーの共通ルールとのこと。「ドライブ」「ドリンク」「デイト」「ドラッグ」の禁止事項。日本の高校生より考えも行動もずっと大人びていますので、「4Dルール」には特に注意を払いました。

・この時はあと2つの「D」、「デンジャラスエリア」と「ディスコ」がありました。デンジャラスエリアとは大宮の南銀エリアだそうです。人をお預かりする事業ですので、この点は帰宅門限の時間（10時）とともに、相当注意を払いました。が、我が家にいるときは大きな問題はありませんでした。

【食卓での会話…受け入れの楽しみの一つ】

ドミニーとは、ほとんど毎日、食後は会話を楽しんでおりました。故郷の話や家族の話、最年少で参加したというウガンダでのボランティア活動の話とか、もちろん学校の話、留学生同士の話、文化・歴史の話など。彼女のお母さんとも、Skypeを使い、手振り身振りですべて楽しめました。

私が晩酌でウイスキーを飲んでいるときに「日本の山崎は美味しいんだよ」と自慢したことがありました。すると彼女が「少しだけ」と言うので少し舐めさせたところ、「お父さん、日本のウイスキーは甘すぎる」と言われ、ビックリした思い出もあります。日本の食パンを自慢した時は「日本のパンは柔らかすぎる」と否定されました。

ドミニーが我が家にホームステイしていた間は、夜の帰りの心配をした程度で、楽しい2ヶ月を過ごす事ができました。

留学生 サントスに関して

伊田年度（2014-15年）に、青少年交換委員長を拝命いたしました。

留学生はブラジルのミナスジェライス州出身の17歳の男の子で、エドワード サントス君といいます。

ドミニーが世話になった大宮北高校に入学しました。



【ホストファミリー確保の苦労について】

カウンセラーは今回も木本会員にお願いしましたが、ホストもすぐに集まるだろうと気軽に考えておりましたが、これが全く集まりませんでした。後で理解するのですが、ホームステイ先ではほとんど奥様が留学生の面倒を見るために、外国の男の子ですと抵抗があるそうです。

特に第1ホストは、空港の出迎えに始まり、住民登録、学校訪問、学校関係の買い物など、短期間にしなければならない作業があり、とにかく第1ホストだけはなんとかせねばと悩んでいるところで、引き受けていただいたのが、現会長の福田さんです。そして第2ホストを引き受けていただいたのが中村雅之会員。このお二人には今も感謝の気持ちを忘れた事はありません。その後、第3ホストがなかなか見つかりませんので、私の奥様に引き受けてもらいました。第4ホストは伊田会長にお願いし、その後はもう一度、2回目のホストとして中村さんに引き受けていただきました。

今後、ホスト集めの為には留学生は女の子が必須と考えます。

【文化の違いとホストとのトラブル】

彼は非常に自己主張が強い子で、決して悪い子ではなかったのですが、日本に慣れるまではホストファミリーといろいろ問題を起こし大変に苦勞いたしました。振り返ると、懐かしい良い思い出です。

・来日してすぐ、第1ホストの福田さんの家で旦那様がカンカンに怒っていらっしゃる、ということがありました。サントスが来日前に日本に着いたらすぐに購入する品を決めていたらしく、福田さん宅に着くや否や、でかい態度で「秋葉原にすぐに案内してほしい」旨、頼みに来たそうです。旦那様には「留学生は勉強にする為に来日したのではないのか」と、もったいなお説教をこんこんといただきました。

・また第2ホストの中村さん宅では、夜中までSkypeをこねて朝起きられずに「学校に行かない」と駄々をこねた事があってらしく、流石に切れた中村さんが、窓から荷物を投げつけて「お前はブラジルに帰れ」と怒ったことがあったとのこと。それ以来「俺の言う事はよく聞くようになった」とおっしゃってました。これは昨日仕入れた情報です。

・我が家でも、いくつか家内が切れた事件がありました。我が家にホームステイしている時に、家内が一生懸命作った味噌汁が「美味しくないと」言って外食に出てしまったり、頻りに学生服を洗濯機に放り込んだり。また、学校に行きたくなくなると「お父さん足がペインペイン」と訴えるなど、とにかく世話の焼ける子でした。

ただ根っから悪い子ではなく、憎めない子でもありました。彼は、最後のオリエンテーションで、日本で学んだ事・体験した事、ホームステイ先での思い出など、日本語で5分間の感動のスピーチをしてくれ、そのことを嬉しく覚えております。

確かに青少年交換はまだ17~18歳の子どもに関わる、大変に気苦勞の多い事業です。が、来日学生が1年間で目まぐるしく成長する過程を見られ、共同生活することで文化の違いや新たな発見できます。

今、コロナ禍で事業が止まっておりますが、再開されました折には、是非、ホストファミリーを体験してみてください。